

出題 蛭雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の文は、枕草子の「すさまじきもの（がっかりしてしまうもの）」の一部です。現代語訳してみましよう。

方違へに行きたるに、あるじせぬ所。

## 豆知識 雑学コラム

### 方角と運勢

皆さんは、朝に占いを見て、今日の運勢を確認しますか？ テス トや試合のような大きなイベントのときは特に気になってしまうものですね。古文が書かれた時代、平安時代は今以上に運勢、占いを気にする時代でした。陰陽師安倍

晴明などは漫画や映画にもなっている有名ですよね。今日は、そうした平安時代の風習だった方違へについて見ていきましょう。

方違へとは「自分が行きたい方

角に神様がいるときに、その神様を邪魔しないように遠回りをして

目的地向かうこと」です。詳しく説明すると、例えば、西の方向に神様がいるときに真っ直ぐ西に行くと神様の機嫌を損ねてしまい災いが起こると考えられていました。こうした場合、西に向かいたいときは一旦、違う方角である南に向かい、そこで一泊して、そこから北西にある目的地向かうようにしていました。

草子は、「おもてなし」を期待して、方違へで知人の屋敷を訪ねて、あるじせぬ（＝おもてなしされない）とがっかりしてしまうという意味です。

さて、方角によって運勢が決まるといふ風習は、現在も残っています。節分の恵方巻を食べるときに、恵方（縁起のよい方角）を向く習慣はこの一例です。方角と運勢を結びつける文化は昔から現代にいたる日本の文化ですね。

## 【解答】

(1) まてしな(まてなし)は、おもてなしのこと。草子は、方違へで知人の屋敷を訪ねて、あるじせぬ(＝おもてなしされない)とがっかりしてしまうという意味です。